平成２４年度笠間市行政評価外部評価委員会　会議録

１．日　時　　平成２４年７月１９日（木）
２．場　所　　笠間市役所本所２階　大会室
３．出席者　　委　員　井上　操
　　岡野　博之
　　赤津　長弘
　　大関　賢一
　　中澤　まさ
　　横須賀　徹
　　所管課　（商工観光課）清水課長，小沢副参事，鈴木課長補佐，箱守主査
　　事務局　深澤市長公室長，（行政経営課）野口課長，石井課長補佐，高松主査，鈴木係長，石塚主事
４．傍聴者　　２名
５．ヒアリング事務事業　　笠間のまつり事業
６．ヒアリング内容

【事業説明】　商工観光課

【質疑議論】

○委員
　この祭りを今後どのように仕上げていくのかが論点整理で出てきたポイントです。この祭りは，友部地区，岩間地区から見ると，馴染みがない祭りであったものですから，どう笠間のブランドとして仕上げていくのか伺いたいと思います。それでは，ご意見ご質問をお願いします。

○委員
　ある程度歴史がありますね。平成３年からということで２０年ぐらいになる。笠間のまつりに，何故ねぶた，青森ねぶたなのだろうと思いました。担当の方は，ねぶたのまま，ねぶたを定着させようと思っているのでしょうか。

○商工観光課
　最初は時代祭りということで２年間行いましたが，夏に鎧兜を着て行うのが大変であるということで，実行委員の中で検討され，次に秋田の竿灯祭りを２年間行いました。しかし，竿灯祭りの何が悪かったかというと，地元で作らせてくれないことでした。

地元の多くの人が参加できるということが目的でしたので，その結果ねぶたが始まりました。参加できるという意味では，小さい子も参加できますし，先ほど説明しましたが，障害を持っている子供たちも参加したことがあります。そういう意味では参加しやすいお祭りです。

それから，ねぶたを市内で作る過程で，中学生や高校生に夏休みの期間に作っていただく。多くの人を巻き込み実行するということでは，ねぶたはすごく有効と思います。

実行委員会の中にプロジェクトチームを作っていまして，このままねぶたを続けていって，将来どうして行くか検討されていました。しかし，結論が出なくて現在に至っています。

市も事務局ですので，実行委員会の中で議論していただいて，その結果がねぶたを推進していく，このまま実施するということになれば，市の方も尊重したいと思っています。

〇委員

いつの日か笠間ねぶたとなるのであれば面白いと思います。しかし，笠間にねぶたが来るということでしかなく，そこに違和感があるのが正直な気持ちです。市町村合併をして，オール笠間のお祭りを打ち上げるということではなく，もともと旧笠間市にあったお祭りを，お祭りだから盛大にしていこうと皆さんが努力しているのは分かるのですが，このままでいいのかという感想を持ってしまいます。

〇委員

特別な質問ではないのですが，私はこれに関わって，ねぶたを手伝ったりしていました。役員になっている方，実行委員会に入っている方は物凄く大変なことは重々分かっています。

小学生や中学生がねぶたを作り，幼稚園生，保育園生が参加することができると考えると，私は非常にいい取組だと思っています。岩間の夏祭りがあるのですが，笠間のまつりと１週間ずれて，市から補助金をいただいて行っていますが，２年間休止してしまいました。今年また実行委員会の方で実施しましょうということになり，進めてきたのですが，今まで関わってきた団体の一部の方々が参加しないというのです。

私はそれを聞いて寂しいと感じました。子供たちに楽しさを伝えてあげられない大人がいるということが寂しいと思いました。

実行委員が１０年ぐらい変わらないで毎年行っている。そこに若い人が受け継いで行うのが理想だと思いますが，人付き合いとかいろいろな部分によって，それがうまくいかないというジレンマがあると思います。

お祭りというのは，各地域で少なくなっています。盆踊りもやらない等すごく減ってきています。だから，これしかないのかとは疑問に思いますが，ただ経費が掛かりすぎるという問題だけで評価したくないと思います。

○委員
　委員のご意見というのは，このような祭りではなく，地域の小さい祭りを継続すべきということでしょうか。

○委員
　もちろんそれもありますが，これだけの年数，歴史がありますので，止めてしまうとそこから立ち上げるのは難しいと思います。各地域でもだんだんとお祭りが消えてしまっているのが見える中で寂しいと思いますから，このようなイベントはイベントとして継続性が必要という部分で申しました。

○委員
　先程，毎年ねぶたでいいのかと言うことで検討し，ねぶたにしているという話がありました。これは今まで実行されてきた方が検討の中心になってらっしゃるのですか。そうであれば結局はそういう結論になると思います。
　一番の問題点は実行委員の地区別の人数を見ると，友部地区，岩間地区の人が極めて少ない。これは笠間地区の祭りだという認識というか雰囲気で友部地区，岩間地区の人が参加していないと笠間地区の実行委員で考えるからねぶた以外は有り得ないと。
もちろん新しく立ち上げると言うのは，エネルギーが必要で，空中分解してしまう恐れはありますが。しかし，友部地区と岩間地区の参加が少なくて，そこに大きな問題があるような気がしています。
　笠間は歴史的背景とか観光地的意味合いもあり，いろいろな催し物が比較的やりやすい条件はそろっていると思います。今までのものは実行しながら，新しく何かを変えることを本格的に進めていかないと，いつになっても成果は表れないような気がします。

○委員
　実行委員会の地区別割合を出していただきましたが，笠間のまつりは，旧笠間の祭りだと思います。資料の中で市民総参加型を目指すとしていますが，この委員構成では，難しいと思います。祭りを行っている人は，他の人を受け入れないような部分が多少あると思います。それは変な見方かもしれないが，実際にあると思います。
　実行委員の構成を変えていかないと市民総参加型にはならないと思うし誰が変えるかというと，それは行政主導しかないと思う。
それから人件費の関係で，人工割合が０．５５人になっています。事務局として，業務内容も細かく記されており，これを見て大体分かりました。この数字上から申し上げると，平成８年から昨年まで１６回開催していますが，実行委員会と１０年以上一緒に開催しているということで，祭りのノウハウをその方々は持っていると思います。そう考えると行

政は，あくまでも事務的なフォローに徹していただいて，実行委員と役割分担を明確にした方がいいと思います。直接作業が記されており，そういうものは実行委員にお任せして公募によるボランティアにお願いする。考え方を変えていただき，ボランティアによる祭りの形を作ることで，段々変わってくる可能性はあると思います。

人件費の観点から言うと，実行委員に任せることは任せて，行政は事務的なフォローという体制をとっていくことで，人件費削減につながっていくと思います。

〇委員

他にありますか。

〇委員

祭りというのは，いろいろなイメージがあると思うが，例えば，祭りの準備の音が聞こえてくるとか，水戸だと黄門まつりも言われ因縁がないお祭りの気がするけど，それでも，囃子の音が夕方になると練習で２カ月ぐらい前から聞こえてくるわけです。もっと有名な，例えば，長崎市とかに行くと半年ぐらい前からとか，祭りが終わったあとから，すぐ練習の音が聞こえてくる。それがお祭りというイメージを持っているけど，それでもやり方はいろいろあると思います。

長い歴史を持っているお祭りは，疫病の厄払いだとか，津波から逃げた，ここに逃げろっていうようなお祭りとか，言われ因縁があってお祭りになっているけど，言われ因縁が余りないお祭りを地域でどうにかしようと思ったら，全体を参加するような形にしないと，お祭りにならないと思います。

ねぶたにある程度経費が上がっている。毎回来るわけですね。１０年以上実施していて，自分達で作れないというのは，そこに笠間のまつりの基本的な問題があるような気がします。自分達で自分達仕様のものができればいいのではないでしょうか。極端なことをいうと，弘前，青森の形じゃなくてもいいはずですよね。そうであれば，この経費は友部地区で実施する人たちのために，サポートに入る部分に使うとかにして，今まで行ってきたところは自分達の力で作る。次の年は岩間地区に入って，岩間の人たちが作るとかということにする。それから，壊れたり燃えてしまったりするかもしれないけど，自分達が自分達の形の物を作っていくような流れにしないといけないと思う。

青森から来る人達がいるからこそ，きちんとしたものができるのかもしれないが，それを１０年以上繰り返して，これからも永続的に繰り返すとすれば，それはやはり単なるねぶたです。笠間ではないと思う。皆で行うというものにどうやって持っていくかだと思う。

つながりのある効果を作っていかないと。頼んで作ってを繰り返していては，毎年形にはなるかもしれないが，参加人員も今の数より増えることもないし，地域的な広がりもないということになってしまうと思う。

逆説的に，言われ因縁を無理やり作っていかないとお祭りにならないと思います。

水戸の黄門祭りも言われ因縁はないと思うけど，水戸は水戸黄門で，黄門まつりというと，それで済んでしまうところがある。黄門様だよといってしまえば，それで済んでしまうところがあって，神輿が出てきて，ワーって騒げば，何となくそうだったのかと，みんな勘違いする。あとは市内の企業皆さん，やだやだと言いながら，踊り手を出して，乱舞するわけです。皆さんそれはもうノイローゼになるらしい。八月の一番暑いときに，４時間も５時間も踊り踊って歩かなくてはいけないですから。水戸から違う支店に転勤になると，ほっとするという従業員さんがいるというぐらいで，それはそれで企業の対抗心で，行っているような部分があるわけです。

動き出すキーを作っていくことで，何かそう動くようになるものがある。それは地区ごとに行っていくイメージをどう盛り上げようかというところにあるように思う。笠間のまつり岩間の祭りとかいっていることがおかしいので，それだったら３地区で競争して見ろと。そういうお祭りにしていったらいいのではないかなという事です。もう何年ですか合併して。６年ですよね。すべてのことに３地区のことが出てきている。これは，笠間のまつりという話になってしまうこと自体がおかしい。

この近くの辛味噌屋が，友部の辛味噌から笠間の辛味噌にさっと切り替えた。そのぐらいの切り替え方が必要だと思う。そういうように切り替え方ができていない典型なのかと思う。このお祭りはそういう切り替えをどううまく仕掛けていくか。お祭りはとても大事だと思います。

〇委員

他にありますか，

〇委員

子供たちが作っている扇ねぶたは，何基出ているのですか。

〇商工観光課

４基です。

弘前にある扇型のねぶたをもともと４台持っていまして，それを毎年使い回して，青森から来る人形の形をしているねぶたと一緒に使っています。これは笠間市のために特別作ってもらっています。こちらに運べるように，あらかじめ分解できるように作ったものです。向こうで一度使い，それを運んできています。本当にこちらで作ってもらうとなると，一体で，２００万円，３００万円ということになります。

何度かチャレンジしたのですが，とても大変でして青森では職業にしている人たちがいます。青森市では５ｍくらいのものを作ります。笠間市の方は，その中でも町内会で作るようなものを作っていただき運んできています。大きなものは，つくばで行っているようなものですが，もともと笠間で行っているのを見てつくばでも始めるようになっています。

因みに，つくばのお祭りは，３，０００万円という予算で行っています。イベントなので，お金を掛ければ，掛けるだけ人を呼べるだけのものを作れるということはあると思います。

○委員
　実行委員会の最初の企画は誰が行ったのでしょうか。核となるような人たちは。プロデュースする人が誰かいるのでしょうか。
　これで行こうと決める，素案を作っている人たちは誰でしょうか。
　実行委員会の組織は，大体実行するための組織ですから。そうではなく最初の素案を作っている人たちはどういう人たちなのかということです。

○商工観光課
　実行委員会の部会長以上の方たちです。

○事務局
　商工会青年部か，ＪＣ等の人たちが，中心になっている感じだと思います。部会長とか副部会長の人たちは，そういう人たちがなっていると思います。

○商工観光課
　事務局の方で，案を作るのではなく，一緒にまとめているということです。
　最初は，一年中掛けて行っており，毎月のように実行委員会を設けていました。
　なるべく実行委員会に任せて，事務局は事務だけにというお話はありましたが，実行委員の皆さんは仕事を持っている方たちですので，このお祭りの始まる準備の期間になったときは，１週間自分の仕事を休んで準備しなくてはならないという状況になってきています。それは見ていて大変だというのもあります。

○委員
　新しくお祭りをゼロからスタートすることは大変なことですが，できることなら私はよその地域のものではなく，笠間を出していけるもの，そしてオール笠間でできるもの，それを考えていただきたい。

○委員
　恐らく実行委員会にすべてを任せたら止めてしまうと思います。行政側である程度フォローする形を取らないと。実行委員会としてはいつでも止めたいと思います。

○委員
　学校に行って扇ねぶたの指導をする。一生懸命やっています。それで理想も分かります。

いろいろな地区から出てもらう。理想は分かります。ただ，岩間の夏祭り自体だけでも，今回復活させようと言ったのに，出てこない地区があるわけです。

ねぶたを青森から持ってきて，人の手を借りてやっているだけだろうという人も確かに多いと思います。しかし本物が一つあって，そのあとに自分たちが作った扇ねぶたでパレードする。ただ見ているだけではないという部分がある。内容を変えるにも変えるだけの情熱がある人が，何人かいないことにはなかなか変わっていかない。とりあえずは，継続することが最低限必要なのかと思います。

笠間のまつりとして，全地区で実施というのは理想ではあると思います。ただ，同じ時期に岩間でも祭りがあったり，いろいろ状況があるということでなかなか全員参加というわけには行かないようです。

〇委員

それでは，時間がきましたので，笠間のまつり事業について評価をお願いいたします。

【評価】

〇委員長

１人が現行どおり継続ということでしたが，改善の余地はあるということで，改善し，継続ということで委員会として出しました。

意見としては，笠間市が一体となるような，独自性のあるお祭りを作っていってはどうかというような意見がございました。そのためにも，ある程度祭りの主体となる実行委員会の構成も見直してはどうかと言うのもありました。

全体的には，改善しながら継続していくとの方向で，笠間市全体が一体となるような工夫をしていただきたいと言うことに成りました。